

式辞

寒さの中にも日増しに暖かさが増し、晴れ間に見上げる霊峰・富士も、その山肌を見せはじめ、裾野には霞（かすみ）を引く頃となりました。本日ここに、静岡県立富士宮北高等学校、令和七（なな）年度卒業証書授与式を挙げるに当たり、ご多忙中にもかかわらず、PTA会長様、同窓会長様はじめ、多数のご来賓の皆様方にご臨席を賜りましたことに、まずは御礼申し上げます。

ただいま卒業証書を授与しました普通科119名、商業科76名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。また、保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。今日までの十八年間、様々なご苦勞があったことと推察いたしますが、お子様を支え、育てていらっしやったことに対し敬意を表するとともに、この3年間の本校の教育活動に対するご支援、ご協力に、改めて感謝申し上げます。

さて、皆さんは三年前、中央道の桜に迎えられ、緑をあしらった真新しい制服で、少し不安で、でもわくわくしながら学校に通い始めたことを覚えていますか。私は、今年赴任しましたが、その春のスタートは大変印象深いものでした。

その着任早々の始業式、私は、「縁」について、お話ししました。東日本大震災で故郷を離れ山形県に疎開した学校が、12年後に福島県に戻り、学校を再開するまでの様々な出会いと、そこから生まれる新しい可能性についてであり、人と人の出会いが新たな自分を作り出し、その出会い、つまり縁を生かすかどうかは、自分自身にあるという話です。そして、新たな縁は、人を大きく変えていきます。

卒業生の皆さん、皆さんの顔は、この富士宮北高校での3年間で間違いなく変わったはずで、卒業アルバムで、1、2年の頃の自分の姿、友人の姿を探してみてください。実感されるはずで、では、内面、心はどれだけ成長したか、それは目で見ることではできません。自分自身を振り返って、自分自身で感じてもらうしかありませんが、皆さんの本校での活躍、北嶺祭でのおもてなし、新たに導入されたマイコーデウィークでの柔軟さ、球技大会での団結力、タンタムタイムでの探究力、部活動で見せた闘志等々、皆さんが大きく成長していく様子を感じることができました。まさに校訓のいう「覇気」「信念」「明朗」を実践してきた3年間だったと思います。

しかし、皆さんの成長は、本校卒業をもって終わるわけではありません。

私は、2025年は、歴史を振り返った時に、生成 AI が社会実装した転換点となった年だっただろうと思っています。アメリカのある学者が2013年に2030年には仕事の半数以上は当時の仕事はなくなっていると予測しましたが、それより早いペースでグローバルにも、ローカルにも変化が進んでおり、生成 AI はその構造上、社会実装すればするほど、進化が早く、シンギュラリティは目前であることを踏まえれば、ここからの社会はこれまで以上に予測ができない社会になっていくことでしょう。

また、世界の政治潮流や経済状況は、平和で安定的とは言えない様相になりつつあります。対話・協力よりも強硬・対立に向かっているかのようです。過激で高圧的なリーダーに多くの国民の支持が集まり、「イエスかノーか」という二極対立が進み、意見や立場の異なる人たちを敵として阻害し、攻撃するという、対立が深まる悪循環が顔を見せ始めています。

そのような時代に我々はどう生きるべきか、恐らく単純な正解は存在しません。皆さんのこれまでの勉学、これからのそれぞれが進む道で、新しい判断基準を創り出していくしかないのだと考えます。ただし、それは決して楽な作業とは思えません。このように社会の著しい変化の中では、自らを成長させていく器を用意しておかなくてはなりません。

今年、皆さんを見ながら、私は、何度も、今の高校生が、自分の目で「見ていること」、「感じていること」そのものに価値があると思ってきました。そのことから、明日(あす)のわたしは、「何をやろう?」「何をやりたいの?」ということ、常に自分自身に問いかけてほしいのです。「何かになる」、例えば、「大学生になった」とか、私でいえば「校長になった」ことに意味はなく「何をやるか」に意味があるということです。

そのために、もっと自分自身の好奇心を信じて、自由度を高め、自分自身の容量をもっと大きな器にする工夫、すなわち、体験を増やしたり、新しい自分を見つけるための選択肢を増やしたり、これまでに出会わなかった人と出会ったりということをしておくことが必要だと思っているのです。そのために、先ほど言った「縁」や「出会い」を大切にできる人であり続けてほしいと願っているのです。

これから、新しいステージでは、解決が困難なことに向き合うこともあるかもしれませんが。その問題を抱えていることは苦しいことかもしれません。だからと言って、自分が直面した問題に、性急に答えを求めず、また、逆に分からないからと切り捨てない。自分の中に課題意識を持ちつつも、明るく、前向きに挑戦し、失敗しても、感謝し、もう一度挑戦する。その循環こそが、私たちが成長させるのだと思いますし、様々な縁がそれ

を支えてくれると思っています。それこそが、富士宮北高校生の信念であってほしいのです。

皆さんを見て、私は、この学校の生徒は、社会に愛される18歳を目指すべきだと思いました。伝統ある富士宮北高校の卒業生として、堂々と、今こそ、その使命をしっかりと受け止めて、これからの新しい時代を、たとえ困難が多かろうとも、覇気・信念・明朗さを持って切り拓いていってほしいと思います。この式の最後に、富士宮北高生として最後の校歌斉唱があります。どうかその決意を持って歌ってください。

皆さんのこれからの人生に幸多かれと祈り、式辞といたします。

令和七年 三月 二日

静岡県立富士宮北高等学校 校長 小谷 和之